

第4回 実践検討会

令和5年1月27日

○実施園 奈良市立保育園 4歳児

○指導助言 行政スーパーバイザー



カンファレンスを進行した幼児教育アドバイザーの自己分析

【研究主題】 「体そだて」

【4歳児 きりんぐみ 活動のねらい】

- ・友達と体を動かして遊んだり、ルールのある遊びを意欲的に取り組む。
- ・遊びの進め方を友達と一緒に考え、イメージを共有して遊ぶ。

【見てもらいたい視点】

- ・意欲的に遊びを楽しむ姿
- ・心の動き、葛藤
- ・環境

【反省評価】

- ・実践検討会に参加するにあたり、今まで進行をして下さった方を参考にしながら進めていったものの、難しく、自身が身構えてしまった。
- ・意見を存分に出し合える雰囲気をつくった。
- ・聞く力：意見を聞いた後、具体的に伝え、まとめられるようにした。
- ・時間配分：重点をどこに絞ってカンファレンスをまとめるか等、積極的に進めることができなかった。
- ・話やすい雰囲気をつくり、誰もが自分の思いを出せることができるようにしていきたい。
- ・今回は、3項目に分けての観点から話し合いだった。経験豊かな方であったか

ら自然と語る事ができたが、経験年数の少ない方用に、WEB方式や付箋での進め方も工夫していきたい。

- ・回数を重ねて、カンファレンスを自身でも円滑に行えるように経験を積んでいきたい。

カンファレンスを通しての学び、気づき（こどもの姿の捉え方、協議内容について）

- ・異年齢児でいろいろな遊びをする中で、4歳児は大縄跳びとお家ごっこに集中していたため、ふたつの遊びを取り上げてカンファレンスを行った。視点はしぼられたため、話しやすかった。しかし、広がりという部分では、時間がおしてしまったため、十分ではなかった。

- ・実践検討会で初めて記録をして、事前打ち合わせもしているが、聞き取って記録をする難しさを感じた。文字の大きさや全体のバランスなどもっと考えて記録する必要があると思った。こどもの姿、環境、保育者の援助はマジックの色を変えて記録することが出来た。大縄跳びの話が終わった時点で、記録をみんなで見て振り返ることができたことは良かった。

- ・3、4、5歳の体そだての遊びを、2つに絞ってカンファレンスを行ったことで話を深められたが、時間が足りず本来の予定の3つ目の協議に移ることができなかった。

- ・主体的に取り組める環境を中心に話し合う中で、フープや三角コーンを使って「おうちごっこ」をしている4歳児に着目し、イメージを膨らませることのできる環境であるには？4歳児は道具の使い方を知って遊ぶ年齢でもあるので、道具の使い方はどうか？等協議することが出来た。そこから、自分だったらどうするかを話し合い、明日につながるヒントにつなげた。また、この場が園庭であればと考えたときにどうであるか等、多角的な見方の意見を出し合え、学びとなった。

- ・研究主題の「体そだて」に沿って、身体を動かす楽しさを感じたり、意欲的に活動したりすることができているのかを視点に観察し、さらに2つの遊びに絞って話をする中で、環境や保育者の関わりや言葉掛けについて深く話げできた。

- ・4歳児のこの時期の姿「共通のイメージをもって遊ぶ中で、友達との関わりを深める」とある中で、やはりどのような空間や用具・道具が必要であるのかを子ども達と話をしながら、一緒に準備をしたりすることや保育者自身が何を育てたいのか意図をもったりすることが大切であることを学んだ。

- ・4歳児のこの時期の子どもの特徴を意識しつつ、「子どもが主体的に取り組める環境とは」の主題に沿って意見を出し合うことができた。明日につながるヒントも考え合い、多角的に見ることの大切さを改めて感じた。また、回を重ね、見る視点がしぼられてきて意見を活発に出し合えたと感じる。

- ・記録は、保育者の関わりや環境など項目によってペンの色を変えて記入していくことで、見る側もわかりやすかった。途中で記録を振り返ったことで整理ができ

た。

- ・ 保育園の研究主題が“体そだて”ということで、その点に着目しながら子どもの姿を参観させていただいた。学年ごとに毎日の積み重ねから、運動用具を使って遊んでいる姿があった。体力作り、体の色々な部位を使って体を育てていくことを目的としておられるのがわかった。

また、園独自の課題があり、遊びの場、環境を作るのに工夫しなければならないことも見せていただき、そのご苦勞も分かった。そこも知ったうえで、子どもが自由に選択して遊べる環境かどうか、工夫できる点があるのではないかと、自分ならばどうするか、視点を絞ってカンファレンスを行ったことは、成果であると感じた。

今後現場でどのように活かしていくか

- ・ 記録では、用紙と文字のバランスを考え、誰が見ても分かりやすい書き方をつきつめていきたい。園内公開保育では、子どもの姿を出し合い、保育者の関わりや環境について意見を出し合い、よりよくなるようなアドバイスができるようにしていきたい。
- ・ 活発に、誰もが自分の思いや意見が言えるような雰囲気づくりをしていきたい。
- ・ 子ども達が何をイメージしているのか、それを膨らませることができる環境を子どもと一緒に考えるようにし、また子どもからどうしたいのか、どうすればよいかを保育者主導でなく、「待つ」姿勢が大事ということを伝え、職員と共に考えていきたい。
- ・ 主題に沿って、視点を明確にしていき、話し合いの中で問いをつくり「自分ならこう考える」「こんな気づきがあった」等参加者の思いが出し合えるようにする。
- ・ 主題を意識し、遊びの場を絞って話を進めていくなど、参加者の意見が活発に出やすいように進めていきたい。「自分ならこう考える」「こういう方法もある」など前向きな場となればと思う。
- ・ できるなら司会と記録（他の先生にお願いする）を分担し、記録を途中で確認しながら進めていく。カンファレンスに参加できない先生もいるので、付箋も有効に使うことも考えていく。
- ・ それぞれの園で課題はあり、それぞれが工夫して保育教育を行っている。自園の職員には、豊かな環境の中で保育している自覚をもって更なる保育教育の質の向上に努められるよう伝えた。カンファレンスの進め方については、今までの4回の積み重ねがあったことで、自分自身の自信にもつながったので、積極的に進めていきたいと思う。

講評より学んだこと

- ・ カンファレンスでのポストイットの活用方法や、話し終わった後に「テーマ」を考えるやり方などを教えていただいた。

・アドバンスステージの者が集まって、カンファレンスをするとう意見が活発に飛び交うが、園内でのカンファレンスでは保育経験年数の浅い先生もいる中で、自分がどうすすめていくのかが、課題である。発言しにくいであろう時には、ポストイットも有効であり、発言しやすい場づくりが大事であると学んだ。

・実践検討会のカンファレンスでは、意見がよく出ていたが、園内の公開保育等では経験年数の違いがあることから、意見が出にくいこともあるので、発言しやすい雰囲気や付箋を使用するなども考慮していく。

・記録はみんなが分かるまとめになるよう工夫する必要がある。振り返りをしながら進めていく事も効果的である。

・「体そだて」については、遊びの中で自然に楽しみながらいろいろな体の動きが身に付く。園庭では起伏があるが、体育館ではないので、意図して環境を整えていく必要がある。

・司会は意見がたくさんあると進めやすいが、園内研ではそうでないこともある。その中で自分がどう進めていくかが課題となる。参加者の様子をみながらその場に合った発言しやすい場をつくっていく。

・記録はホワイトボード、それ以外、そして司会が記録を兼ねる場合もある。振り返りをしながら進めていくなど参加者がわかりやすい工夫をしていく。

・子ども達の動きを見届けながら、環境を整えていく。子どもの姿からは多角的な気づきが得られる。気づけることから学びへとつながっていく。

・視点を絞ってカンファレンスを行うことで、より深い部分まで、保育を掘り下げられるが、参加する方々によっては、なかなか意見が出ないこともあるので、そのような時にどう進めていくか、実践を積んでいく必要があるということ。

4回を終えて、進め方や、意見の出し方、視点を絞るなどたくさんのことを学びました。ありがとうございました。

グループで検討した協議方法について良かった点や反省点

・保育園の現状を踏まえた悩みと、4歳児の「体づくり」の中での「おうちごっこ」を含めたカンファレンスが出来た。また、カンファレンスの中で今後の保育のアドバイスをいくつか提案できた。カンファレンスの時間が短くなってしまったので、今後は、カンファレンスを主に考えて時間配分をしていきたい。

・実践検討会でのカンファレンスは一人一人が自分の思いや感じたことを話し、安心感がある。

・事前にどのような視点で、カンファレンスを行うか、担当で話し合いをしていたので進行しやすかった。記録も途中で振り返りをすること、保育者の関わり、こどもの動き、環境など色を変えて記入し分かりやすくすること、小さな違和感を大事にして話し合いを深めていくこと等、今までの3回の実践検討会の中で学んできたことを集大成してすすめることができ、それらの大事さを再確認した。

幼児教育アドバイザー講習「実践検討会」 記録用紙 令和5年1月27日(金) 4歳児 研究主題 「体 そだて」 「保育園に行くことが楽しい、明日、何しよう」と主体的に取り組める環境」 「体を動かす楽しさを感じ、意欲的に活動する」		
遊び(意欲的に遊びを楽しむところ)	子どもの心の動き(心の葛藤)	環境(今後の遊びの変化 アイディアを含む)
明日につながるヒント		

＜ 体育 ＞ 1月からチャレンジタイム

入なわとび

たのしみ姿。(とぶこと 数を数えること)

順番を待つ姿

トランプもあつたが話し合うこと課題
必要なものも考える機会

300回
100回

目で見てわかるもの

- * 数を数えることがうれしい
- * とび方をアレンジするのがうれしい

① 子どもたち一人一人のよいところをピックアップする
体の動き... どこをどんなふうにかかっているのか
声に出してほめる。

② とび終わった後すぐに声をかけていた
とべたことがより嬉しい

あそびがおわった時に子どもの「えー」の思いを
受けとめていた

子ども達主体で考えられたのでは!?

とび方 見本など..

- ・ 絵など壁に貼る.
- ・ わごの名前を決める.
- ・ 並び方の工夫(異種と遊んでいるからこの工夫)

おうちごっこ (会社ごっこ)

おうちごっこ ↔ 会社ごっこ

ボールをねこや動物に見立てていた

ジョーン 会社に見たてる

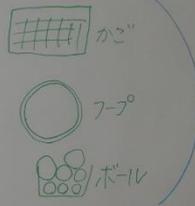


おうちごっこに見立てるものが少ない
どうして遊ばない?

保 「体育で」体を動かして遊んでほしい。

子 やりとりが好き! 大好き!

保 このときのあそびを保障する必要がある
でも、メインは体育だから、どうだろう!?
保育者の葛藤



あるものを使って、何と何として
遊ぼうとしている

↓
でも、他の子は本来の使い方をしたい。

☆ 自分がやりたい遊べるできる場

保 確保していく必要がある。

今後「おうちごっこ」も楽しめる
ように!

園庭として考えたら...

⇒ ごこあそびもあってもいい。

子ども達がもとイメージしてあそべる物があればいい。

保 3,4リ返りでダンボールなど出すことの提案